

着実に進む大雨からの復旧 市民と共にさまざまな支援に取り組む

台風5号に伴う7月21日の大雨は、久留米市内に大きな被害をもたらしました。48時間降水量は402.5mmで、観測史上1位を記録。42カ所に開設した避難所には、最大で270世帯、505人が身を寄せました。推計で床上浸水が196件、床下浸水が120件発生。他にも道路の損壊や中小河川の氾濫などが発生し、さまざまな支援や対策が必要になりました。市は、市民や商工業者、農



床上浸水の被害を受けた家屋で活動するボランティアの皆さん

家の皆さんの相談窓口の開設や、災害ごみの受け入れ、家屋の消毒などを実施しました。市社会福祉協議会では災害ボランティア相談窓口を設置。床上浸水の世帯でボランティアの皆さんが、掃除や片付けを手伝いました。床上浸水被害を受けた江頭史剛さん（東郷原町）の自宅は、水が床上約20〜30cmほどまで来たそう。「浸水自体はある程度諦めたが、どこまで上がってくるのかと不安でした」と、当手を振り返りました。



宮ノ陣クリーンセンターには、多くの災害ごみを持ち込まれました

市政の動き

17人を強化指定

久留米市は、将来オリンピックやパラリンピックなどでの活躍が期待されるジュニアアスリート強化指定選手に認定し、遠征費や指導者謝礼金など、費用面で支援しています。対象は日本代表に選ばれたり、全国大会で3位以内になったりした、市にゆかりのある選手。今年度は柔道と自転車、空手、カヌー、陸上、サッカー、野球から計17人を指定しました。認定式で大久保勉市長は「近い将来、オリンピックでメダルが取れるよう頑張ってください」とエールを送りました。



大久保市長から認定証を受け取る南筑高校柔道部の古賀若菜選手

国際会議を誘致

7月22日から24日まで、イタリアのミラノで開催されたLTD18国際会議（低温検出器国際ワークショップ）に、大久保勉市長の動画メッセージと久留米の日本酒を送りました。

同会議は、平成29年に久留米シティプラザで開催され、参加した研究者から施設の機能や利便性が高く評価されました。会議の間には酒蔵ツアーも。市はLTDの日本開催最高責任者であるJAXAに、毎回シティプラザで開催することを呼び掛けています。



日本酒はすっかりした喉越しで海外でも大人気



最終日、棚に陳列している商品は売り切れ状態に

福岡久留米館閉店

東京都新橋にあるアンテナショップ「福岡久留米館」を7月31日に閉店しました。同店は、久留米広域連携中核都市圏事業として、平成29年7月にオープン。圏域の知名度向上や特産品の販路拡大、交流・移住人口の増加を目的に、地元銘菓の販売、移住や観光相談などを行っていました。場所や店舗の問題もあり、来館者数、売上額とも目標から大きくかけ離れており、費用対効果を考慮すると継続は難しいと判断しました。



今年が最後の挑戦。呼び掛けにも熱が入りました

トップ10へ意欲

市イメージキャラクター「くるめっ子」が、ゆるキャラグランプリ2019でのトップ10入りを目指し、8月上旬に街頭選挙活動を行いました。JR・西鉄久留米駅では、朝の通勤・通学時間帯に合わせて、ティッシュペーパーを配布し、投票を呼び掛けました。

投票期間は10月25日（金）まで。1日1回投票できます。

シティプロモーション特設サイトへ
詳しくはQRコード

緋の草履作りを体験 モデスト交換学生が来久

7月19日から30日まで、姉都市の米国モデスト市から、交換学生として10人の高校生が久留米を訪れました。

滞在中、久留米緋工房の見学や篠山神社の散策など、久留米の歴史や文化に触れました。26日には久留米緋を使った布草履作りを体験。ジョージ・ジャッジさんは「ものづくりにこんなにじっくり取り組んだ経験が無かった。緋の柄はとても美しい」と感想を話しました。



市内の高校生と触れ合いながら行われた体験会

くるめっ子、いざ出陣 中体連 全国大会・九州大会へ

8月2日、中体連の全国・九州大会への出場を勝ち取った市内の中学生が、森望副市長を表敬訪問しました。本庁舎を訪れたのは、ソフトテニス、陸上、水泳、柔道、バドミントンなどで県大会を勝ち抜いた、市内の9中学校の46人。柔道で九州大会に出場する城南中学校3年の吉田夢菜さんは「力を尽くして勝ち進んでいきます」と大会への抱負を語りました。



森副市長（中央左）や大津秀明教育長と一緒に記念撮影